

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

|     |             |    |       |        |       |
|-----|-------------|----|-------|--------|-------|
| 学校名 | 熊野町立熊野第四小学校 | 校長 | 元永 圭一 | 生徒指導主事 | 森本 恭平 |
|-----|-------------|----|-------|--------|-------|

取組事例名 『広げよう、あいさつの輪』

取組における育てたい資質・能力

| 人間関係形成        |   | 社会参画      |   | 自己実現  |   |
|---------------|---|-----------|---|-------|---|
| 「コミュニケーション能力」 | 1 | 「主体性・積極性」 | 2 | 「使命感」 | 3 |

取組のねらい

学校全体であいさつの徹底をはかる。

| 取組の具体的内容 | 取組の創意工夫<br>『キーワード 振り返りを生かす力の育成』 |
|----------|---------------------------------|
|----------|---------------------------------|

|   |   |
|---|---|
| <p>○年に3回の強化月間を設け、はじめは意図的にあいさつ運動を仕組み、あいさつの手本を示し、少しずつステップアップしながら児童が自分からあいさつできるようにしていく。</p> <p>① 4月の生活目標「あいさつをしよう」</p> <p>児童会がトップバッターを切り、6年生から順に学級ごとにあいさつ運動を行う。</p>  <p>② 9月の生活目標「自分からあいさつをしよう」</p> <p>2日間ずつ日にちを定めて、学年ごとにあいさつ運動を行う。</p>  <p>③ 1月の生活目標「自分から気持ちのよいあいさつをしよう」</p> <p>縦割り班ごとに日にちを決めて、あいさつ運動を行う。</p>  | <p>学校の教育目標『振り返りを生かす力の育成』</p> <p>あいさつ運動の時間を7:50~8:05と設定し、強制ではなくなるべく参加しようという形で取組を行った。</p> <p>①4月のあいさつ運動では、全学年が1週間ずつあいさつ運動を実施した。しかし、1か月半という長期間になったため、あいさつ運動の意欲を継続するのが難しかったという振り返りが出た。その結果を踏まえ、9月のあいさつ運動は1学年2日間ずつ3週間に集中して取組を実施した。</p> <p>②9月のあいさつ運動では、児童があいさつ運動を意識して積極的に参加することができた。その一方で、児童の振り返りから、あいさつの声の大きさや態度の課題が出てきた。1月は1年間のあいさつ運動を締めくくる取組になるように、縦割り班でのあいさつ運動を実施することで、高学年の児童が低学年の児童の手本となって、声の大きさや態度を意識してあいさつ運動を行った。</p> |
|---|---|

取組の成果と課題

○仲間と力を合わせる集団作りの推進に向けて、児童教職員意識調査のアンケート項目①「自分からすすんであいさつをすることができる」における肯定的な回答の割合は、児童83%、教職員25%だった。

○成果としては、定期的にあいさつ運動を実施することで、あいさつをする児童が増えた。

●「自分からあいさつすること」が意識できていない児童が多い。すなわち「主体性・積極性」に課題がある。今後は、児童にどのような姿ができてきている状態なのか知らせ、担任や担当で声をかけ、指導と評価を続けていきたい。また、活動の後には振り返りを行い、次の取組に生かしていきたい。